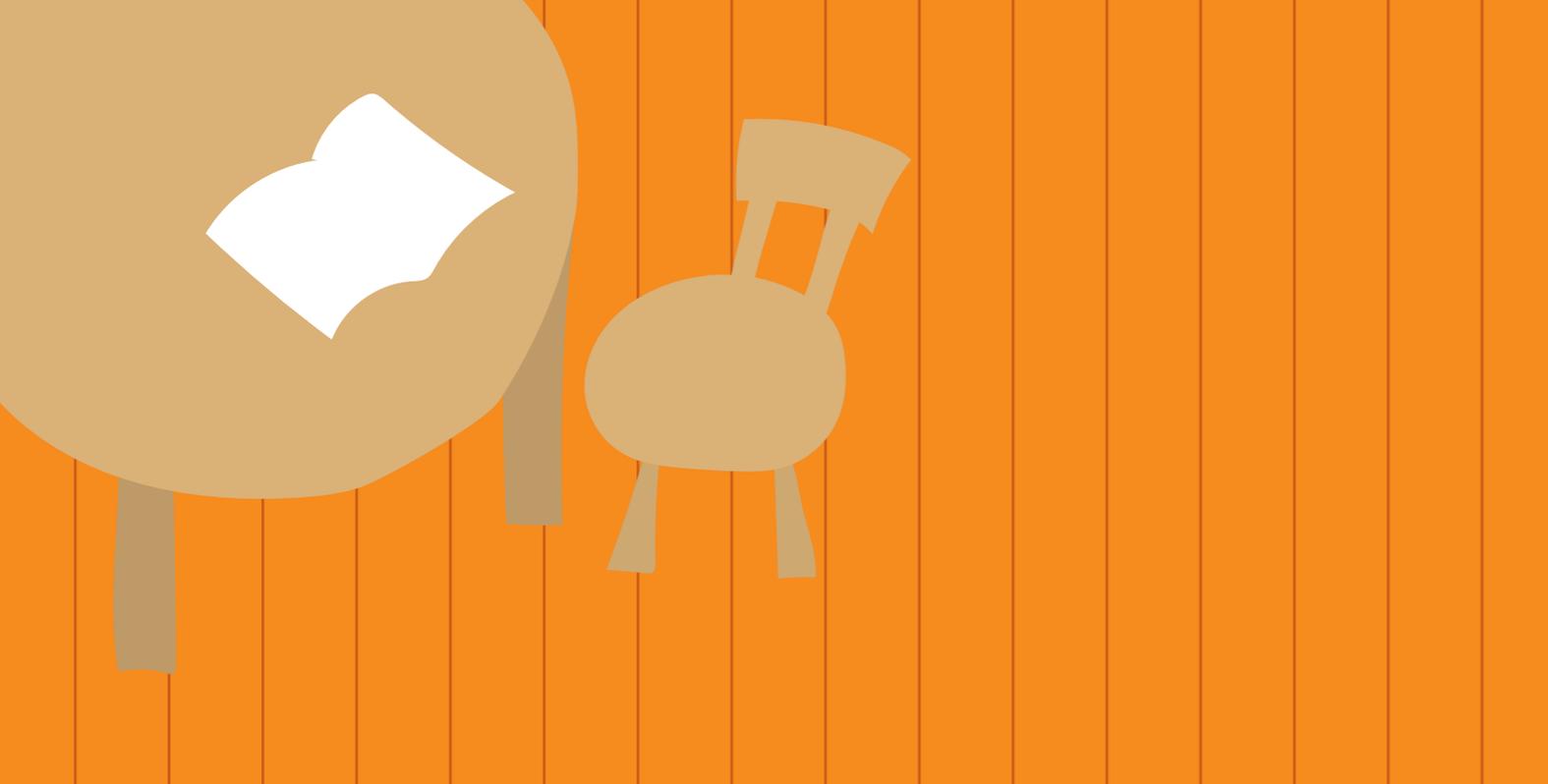


あなたには、  
アコヤの精が  
みえますか？



ぼくが引っ越しをしたのは小学生のとき。  
そこはたくさんの緑に囲まれた場所で、  
越してきたばかりのぼくはとてもわくわくしていた。  
ドア、窓、壁…新しいおうちにはたくさん木を使っていて、  
どれもお父さんがたくさん勉強して選びぬいた自慢の材料なんだって。  
お父さんの誇らしそうな顔を見ていると、  
なんだかぼくもうれしくなった。





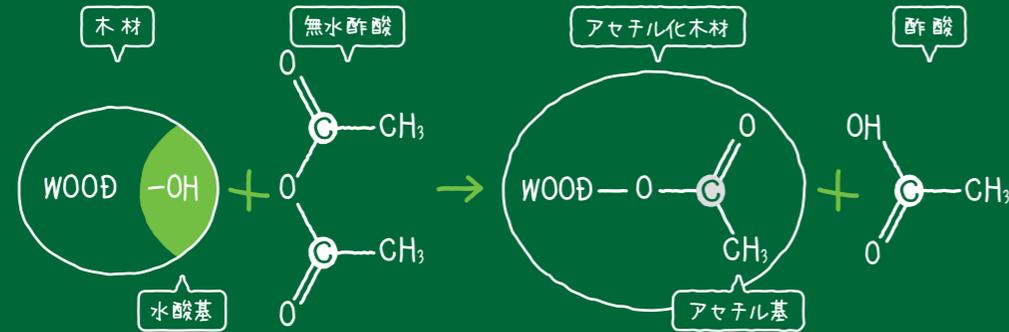
庭には大きなウッドデッキとピクニックテーブルがあって、  
ぼくはその場所がすぐに大好きになった。  
すべすべのウッドデッキの上を裸足で歩くと  
とっても気持ちがいいんだよ。  
ぽかぽかあったかい日に  
ピクニックテーブルで本を読んでいると、  
なぜかすぐにうとうとしちゃうんだ。



そんなぼくを見て、  
お父さんもすごく嬉しそうだった。  
そして、秘密を打ち明けるように  
教えてくれたんだ。

「このウッドデッキはね、特別な木を使っているんだよ。アコヤっていうんだ。」

アコヤはアセチル化された木のことだよ。アセチル化することで細胞の中の水酸基を減らして、代わりにアセチル基の数をたくさん増やすんだ。どちらも木の中に元々あるものだけど、水と仲良くできる水酸基と違って、アセチル基は水と仲良くできない。だからアセチル基の多いアコヤは、水の影響をとっても受けにくいんだ。



つまり、アコヤは水酸基の数がとっても少ない木だから、ジメジメしている環境で使ったり、たくさん雨に濡れたりしても、腐朽菌が求める水分が十分でない状態なんだ。だから、アコヤを食べることができない。それに、くっついている水分がいつも少ないってことは、アコヤは反ったり曲がったりもしにくいっていうこと。すごいだろう？

お父さんが言うには、アコヤは「アセチル化」とかいう方法で、木を腐らなくしているらしい。「腐らない」ってことは他の木よりもとっても強いって意味かな？お父さんが使うのは難しい言葉ばかりで、ぼくには理解できないことが多かったけど、とにかくアコヤはすごい木なんだって。

木は水があることで「腐ったり」「反ったり」するんだよ。木を腐らせる菌のことを腐朽菌っていうのだけど、この腐朽菌が活動するにはいくつか条件が必要なんだ。それは「酸素」「適切な温度」それから木の中の水酸基とくっつく十分な量の「水分」。だからしっかり乾燥している木は腐りにくく、反対に湿っている木は腐朽菌にとってすごく居心地の良い場所ですぐに腐っちゃう。

そして、もう一つぼくが知っていること。くんくん、アコヤを匂ってみるといい匂い。なんとアコヤはお寿司と同じ匂いがするんだ。お父さん情報だと「アセチル化」にはお酢を使うんだって。だからアコヤは少し酸っぱい匂いがする。でもそれだけだよ。もともと木の中になかったものはアコヤの中に残っていないんだ。だから、酸っぱい匂い以外は他の木とおなじで、何も悪いものは入っていないんだって。

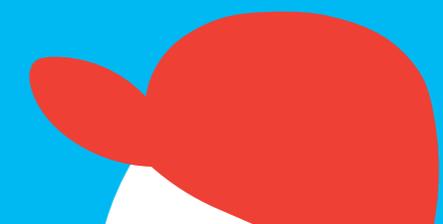
うーん、頭をたくさん使ったらお腹が減ってきちゃった。  
今日の夜ごはんはお寿司が食べたいな〜。

ある日、ぼくは空に虹が出ていることに気がついた。  
もっとよく見たくて、ぼくが急いで庭に出ると、  
アコヤのウッドデッキの上に  
なにか不思議なものが浮かんでいるじゃないか。  
じっと見つめていると  
「きみには見えるの？」と  
そのふわふわしたやつが話しかけてきた。

「あれれ、そんなにおどろかないで。わたしの名前はアコヤの精。アコヤに宿る妖精で、アコヤのことが大好きな人には見えるんだよ。」



ぼくがびっくりして声を出せずにいると、  
そのふわふわしたやつは言った。



夢でも見ているんだろうかと思ったけど、  
何度目をこすってもそのふわふわしたやつは、ぼくの前からいなくならなかった。  
それにとっても不思議なんだけど、アコヤの精のそばにいと  
アコヤのデッキでひなたぼっこしている時みたいに心地いいんだ。  
アコヤの精が見えることにだんだんと慣れてきたぼくは、  
アコヤの精といろんなことをして遊んだよ。  
ぼくのお気に入りの絵本を読んだり、庭にできたアリの巣を眺めたり、  
空に浮かんだ雲の形が何に見えるか言い合いっこしたり… ぼくは新しい場所で、新しい友だちができたこととってもうれしかった。

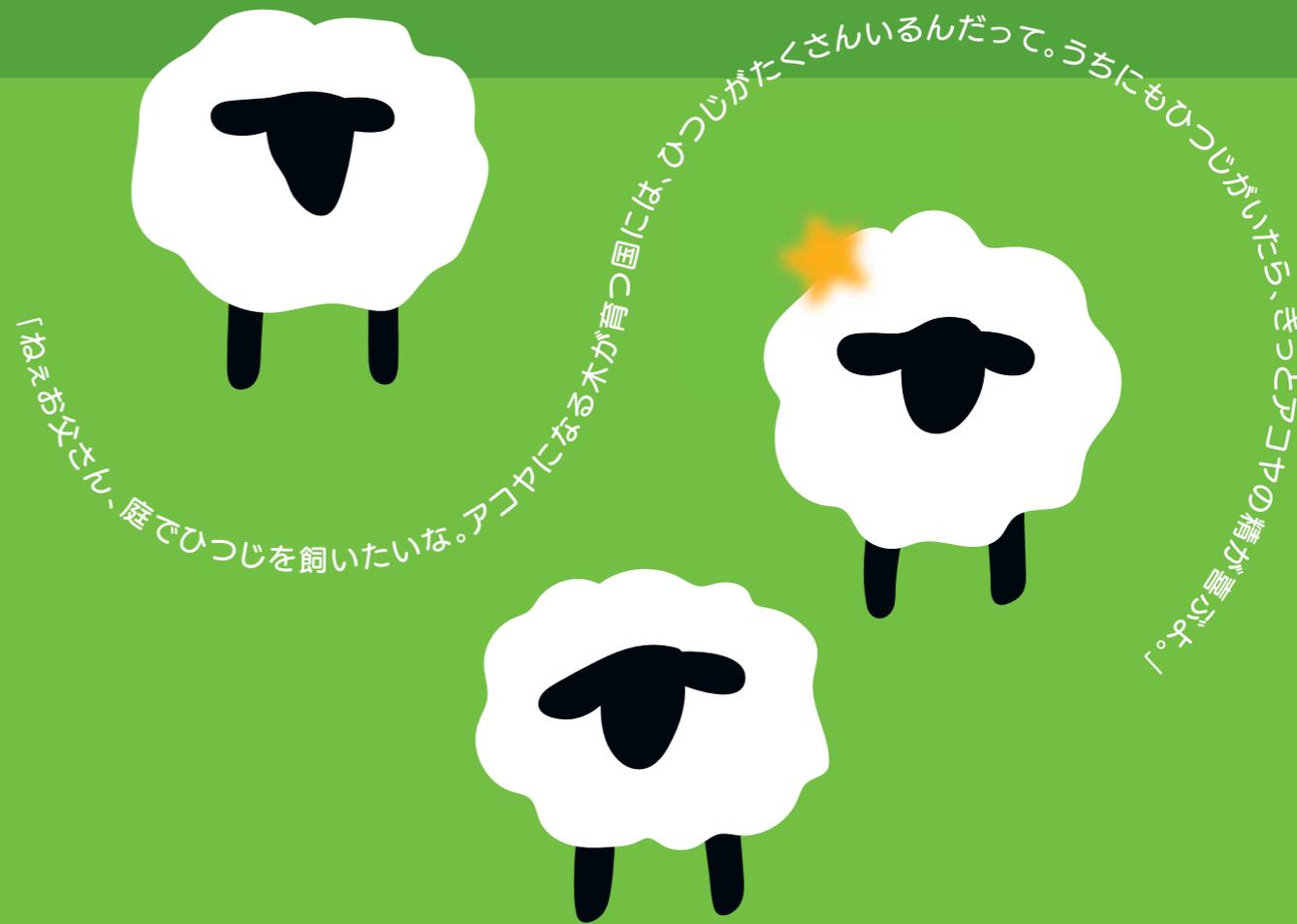


夕ご飯の準備をしながら、  
「今日は何をしていたの?」と  
お母さんがぼくに尋ねた。  
ぼくが「アコヤの精と遊んでいたよ」と言うと  
「そうなの?それは良かったわね。」と  
お母さんはにっこり笑った。  
だけど、ぼくの話の信じたわけではないと思う。  
なぜって?  
それは、くすくす笑いながら  
目の前を飛ぶアコヤの精に、  
お母さんがちっとも驚かなかったからだよ。  
どうやら、アコヤの精が見えるのは  
ぼくだけみたい。

今日はお父さん、お母さんと一緒に  
植木屋さんへお買い物。  
庭にはハナミズキの木が一本あるだけだから、  
周りがにぎやかになると  
きっともっと楽しいと思ったんだ。  
チェリーセージ、フェンネル、レモンタイムにローズマリー。  
つるバラもきれいだね。  
そうだ他にもたくさんお花を植えよう。



アコヤで作ったプランターにローズマリーを植えながら、  
ぼくはアコヤの精から聞いた話を思い出した。  
「アコヤになるための木はニュージーランドっていう国で育つんだよ。  
その国には木だけじゃなくて、ひつじもたくさんいるんだ。」



するとお父さんが「おやおや、急にどうしたんだい？

アコヤの精って？」と聞いてきた。

だからぼくはアコヤの精と一緒に遊んだことを話したよ。

「なるほど。知らない間に、素敵な友だちができたんだね。

お父さんも会ってみたいなあ。」

すると、近くでふわふわしていたアコヤの精がくるんと一回転してみせた。

そして、やっぱりお父さんもそのことに気がつかない。

「それなら、クライミングウォールも作ったらどうかな？

完成したら、そこでアコヤの精と一緒に遊べるよ。

こないだネットで見ただけど、

トライコヤっていうぴったりの素材があるんだ。

それを使えばきっとアコヤの精も喜ぶぞ。」

お父さんは情報収集に余念がない。

トライコヤっていうのは

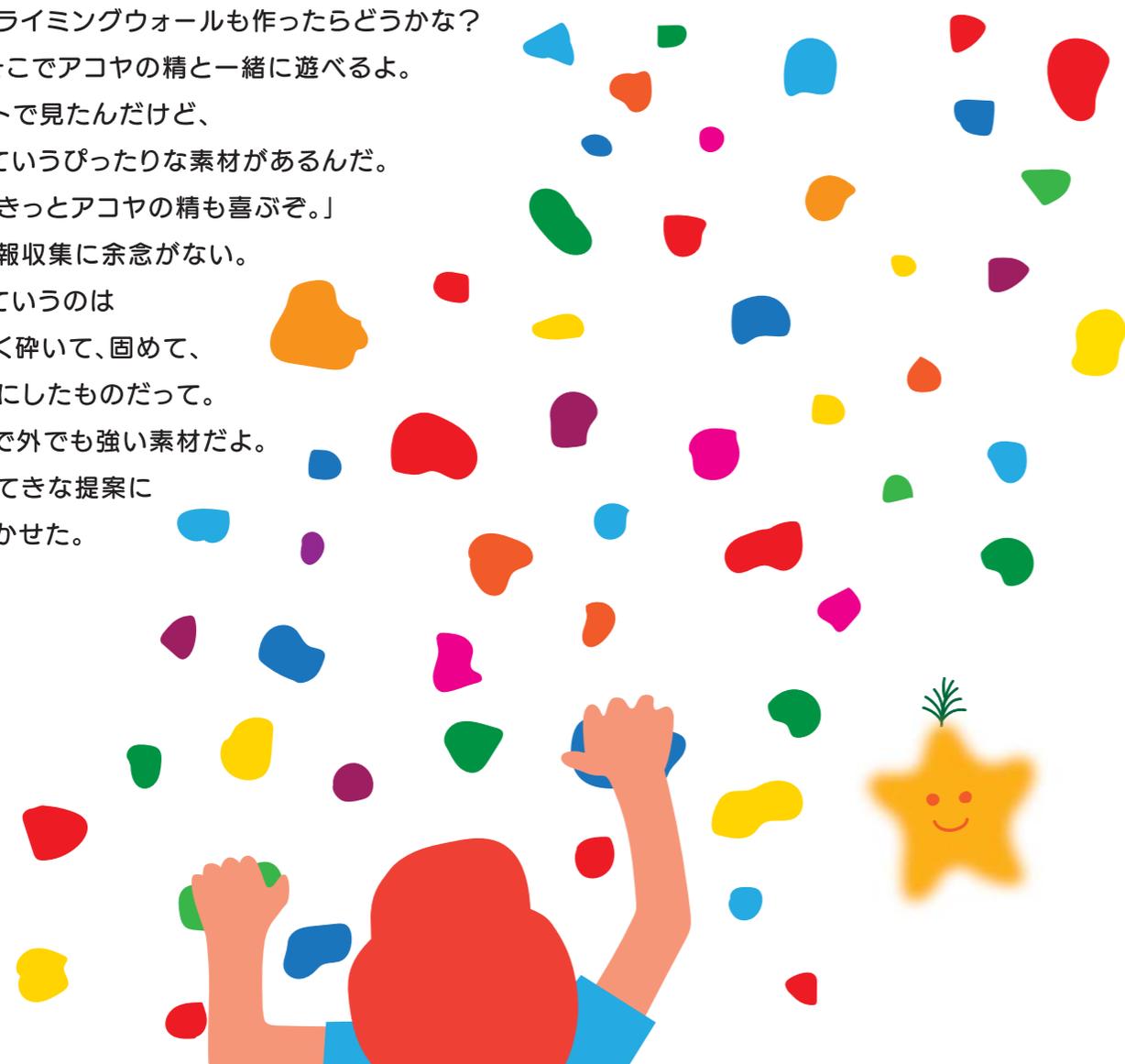
アコヤを小さく砕いて、固めて、

大きなパネルにしたものだって。

アコヤと同じで外でも強い素材だよ。

お父さんのすてきな提案に

ぼくは目を輝かせた。



1日中がんばったから、

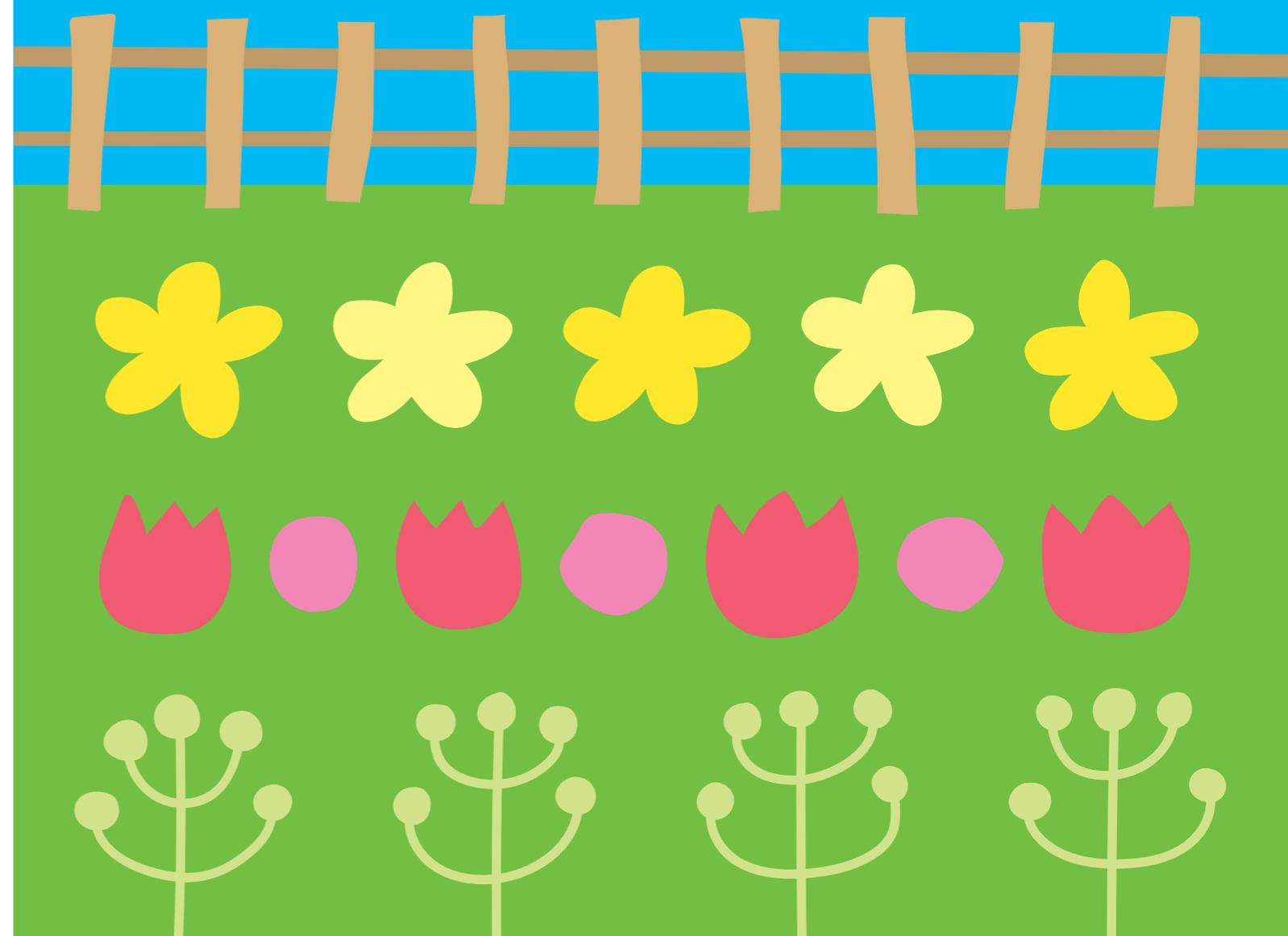
ぼくのおうちの庭はとってもすてきに変身した。

ひつじが逃げないように、

庭のまわりにはアコヤでできた柵も取り付けられている。

あとはひつじがいればばっちりだよ。

ところでひつじはどこに行ったらもらえるのかな。



ある夜、ぼくはとってもこわいテレビ番組を観た。

それは「地球温暖化」のおはなし。

今までにない速さで地球や海水の温度が高くなっているんだって。

地球がどんどん暖かくなると、ぼくたち人間や他の動物、

植物たちは生きていけなくなるって言ってたよ。

空気中の二酸化炭素は「温室効果ガス」と呼ばれていて、

空気を温める働きがあるらしい。

ぼくたちが生きていくために快適な気温に保たれているのは、

この温室効果ガスのおかげでもあるんだ。



それなのに今、この温室効果ガスが増えすぎて、

地球の温度調節がうまくできなくなっている。

原因は産業を発展させるために、石炭や石油、天然ガスなどの

“化石資源”を大量に燃やしてきたこと。

ぼくたちの生活を豊かで便利にする代わりに、

空気中にたくさんの二酸化炭素を出し続けてしまったんだよ。

それと同時に森林もたくさん壊してきた。

家を建てるため、畑を作るため、牛や豚などの家畜を飼うため。

理由はいろいろあるけれど、本当なら二酸化炭素を

減らしてくれるはずの木が減って、

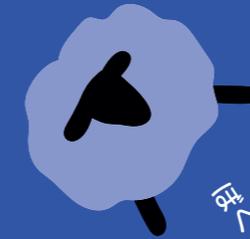
地球温暖化を食い止める力も弱まっているんだ。

地球温暖化が進むと、北極や南極にある氷が溶けて

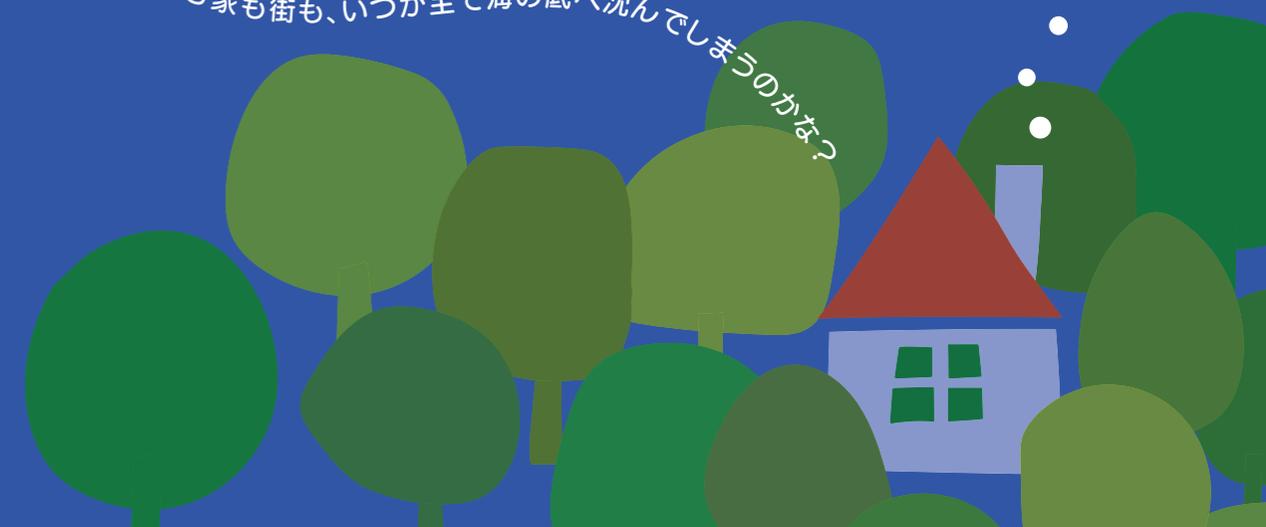
海水が増えてしまうよ。

海水が増えると、低い場所にある地面や小さな島が

海に沈んでしまうんだ。そうなったら大変。



ぼくの住む家も街も、いつか全て海の底へ沈んでしまうのかな？



それからね、  
寒い場所の氷が溶けて陸が少なくなると、  
そこで暮らしていた動物たちは  
生きていけなくなるんだ。  
すでに、ホッキョクグマは  
家や食べものが少なくなって、  
その数が減ってきているんだって。  
数年後には会えなくなってしまう  
生きものもいるかもしれない。  
そしてそれはぼくたち人間にも言えることだよ。  
海の温度が変化すると、  
雲ができるしくみや風の起こり方も変わっていく。  
強い雨が急に降ってきたりして、  
変な天気も起きやすくなるんだって。  
木がないと山に降った雨はすぐに流れてしまうから、  
洪水も起きやすくなるよ。  
とにかく地球温暖化のせいで、  
いろんな問題が心配されているんだ。



このまま地球はおかしくなってしまうのかな？  
アコヤを使って森を減らしてしまった  
ぼくやお父さんも「悪い奴らだ！」って  
逮捕されちゃうかもしれない。  
ぼくはそんな大変なことが地球で起きているって  
知らなかったからびっくりしちゃった。  
だからアコヤの精に聞いてみたんだよ。  
ぼくたちはこれからどうしたらいいのかな。  
何かできることはあるのかなって。  
するとアコヤの精はぼくに教えてくれたんだ。

「あのね、木を伐ることは決して悪いことではないんだよ。それどころか、地球を守ることにもつながるんだ。地球温暖化の原因は二酸化炭素なのは知ってるね。そう、だから答えは単純だよ。地球温暖化を止めるには、二酸化炭素を出さないような資源を使うようにすればいいんだ。何かあるかな？ そう、その一つが木だね。木はたくさんの二酸化炭素を吸収するし、何億年という時間をかけてできる化石燃料と違って、長くても数十年で立派に大きく育つんだ。とっても持続可能な素材なんだよ。」

「持続可能、、むずかしい言葉だけど、ずーっと使えるってことかな？」

「そうだね、きちんと使ってあげればずっとなんて使えるってことだよ。」



「それとね、木にも寿命があるんだ。歳をとった木より、どんどん大きくなる若い木の方が、二酸化炭素もたくさん吸収してくれるんだよ。だから、大きくなった木はきちんと伐って使ってあげたほうがいいし、森が茂りすぎないようにお手入れしてあげることも必要なんだ。これも、木が元気に育つためには大事なことだけど、この“お手入れ”がきちんとできていない森が世界にはたくさんあるよ。木は伐っても大丈夫。でもね、伐ったら植える、植えたら元気に育ててあげて、大きくなったら伐って大切に使ってあげる。そしてまた植える。この手順をくり返すこと。木が成長するために費やした年数よりも、資源として長く使ってあげることが大事だよ。」

「アコヤは木の中でも成長がとっても早いんだ。  
25年で大きく成長するんだよ。」「25年!」「そして、外では50年も  
使うことができる。」「50年も!つまり、ぼくがおじいちゃんになっても  
ずっとアコヤと一緒にいられるってことだね。」  
それを聞いてアコヤの精は優しく微笑んだ。  
「だけど、みんながアコヤみたいに強いわけじゃない。  
それに、成長が早い木もあれば、  
ゆっくりゆっくり成長する木もあって、  
みんなそれぞれ違うんだ。」


$$50 \div 25 = 2$$

例えば、あそこに立っている木。すこしピンク色をしていて良い香りのするこの木は、  
大きくなるのに60年くらいかかるけど、家の中で大切に使えば、  
60年よりもっと長く使うことができる。でもね、外だと成長に必要な年数の  
10分の1から20分の1の年数しか使えないんだ。腐ってしまうからね。」  
アコヤの精が悲しそうに言った。

「でもね、アコヤは違う。アコヤを作るために木を伐って、  
その場所にすぐ新しい木を植えたでしょう。  
アコヤを50年使い切ったとき、成長している木はどれだけあると思う?」  
「ぼく、わり算を習ったから計算できるよ。ちょっと待ってね。えーっと、  
アコヤの木は25年で1回大きくなるんだから、使う年数の50を割って…  
50÷25で、答えは…2だね!」  
「正解!アコヤを使いきった50年後には、木は2本成長している、  
つまり2倍の量に増えるんだ。  
だから、アコヤはたくさん使っても大丈夫。  
すぐに新しい木が大きくなるからね。」



「それにね、アコヤのように  
長い年数を外で使える木は、  
プラスチックやアルミ、コンクリートといった  
他の素材の代わりになることもできるんだ。  
しかもアコヤを含め、  
木が製品化されるまでに必要とするエネルギーは、  
他の素材に比べてとっても少ない。」  
「いろんな木や他の素材と比べても、  
アコヤはとっても優等生なんだね。」  
そのとおりだよと言うように、  
アコヤの精はうなずいた。  
「鉄やコンクリートを使うことが  
当たり前だった場所、  
雨に濡れるから木が選ばれなかったところ、  
そんな場所でもアコヤは使える可能性があるんだよ。  
他の素材を使っちゃいけないわけじゃないし、  
他の木を伐っちゃいけないわけじゃない。」

でもね、それぞれの素材にふさわしい使い方があるんだ。  
だからよく考えて、大切に大切に使ってあげてね。」



それからも、  
時々ぼくはアコヤの精と遊んだり  
おしゃべりしたりしたんだけど、  
だんだんと学校が忙しくなってしまって、  
気が付いた時には  
アコヤの精は見えなくなっていた。  
引っ越してきたばかりで  
ひとりぼっちだったぼくに、  
たくさん友だちができて  
アコヤの精も安心したのかもしれない。





あれから10年。アコヤの精から聞いた話をぼくはずっと忘れられずにいる。  
おかげで、学校で勉強する以外でも環境問題についてよく考えるようになった。  
自然は本来、自分の傷を自分で治す力があるはずなのに、  
環境問題はなぜなくなるのか？それは、ぼくたち人間が起こす破壊活動が、  
自然が自分で治癒できる能力を超えてきてしまっているからなんだ。  
これから何年経った先も、ぼくは自分の好きな土地で、自分の大切な人たちと  
安心して暮らしたいし、時には遠い場所へ旅にも出たい。  
そして旅先で見たきれいな景色や、わくわくした気持ちや感動を、  
一度ではなく何度も味わいたいと思うんだ。  
度重なるゲリラ豪雨や自然災害は確かにぼくの身近でも起きていて、  
地球温暖化による影響は決して他人事じゃない。  
ひとりひとりが生き方や考え方を見直す時代がやってきているよ。

雨上がり、空に虹がかかると今でもデッキに目を向ける。  
アコヤの精がいなくなってもある日気がついたんだ。  
アコヤの精はぼくの前からいなくなったんじゃない。  
アコヤの精と出会って大切な友だちになったから、  
アコヤの精はぼくの心の中にいて、いつでも会えるんだって。

今の世界を見たらアコヤの精はなんて言うかな？そんなことを思っていると、  
懐かしくすすす笑う声が聞こえたような気がした。





アコヤ日本総販売元

**池上産業株式会社**

729-0105 広島県福山市南松永町 4-2-36

TEL 084-933-8856 FAX 084-933-8857

[www.woodwise.jp](http://www.woodwise.jp)



The mark of  
responsible forestry

ACCOYA®およびTRICOYA®は、Titan Wood社の登録商標です。